※令和４年度以降入学生用

学校番号	3034

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書Ⅰ」（光村図書出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・古典や現代の書から様々な書体・書風を体験し、自分らしい書作品を制作することが出来るようになることを目指します。
・作品制作では、粘り強く修正していくことで達成感を味わい、自信をつけ、書を愛好する心情を育てます。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
（２）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
（３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。（知識） ・書写能力を向上させるとともに書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。（技能）	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	漢字の書	書写から書道 書体の変遷 楷書の古典の鑑賞と臨書 作品制作 相互批評会	a:書体や書風と用筆との関わりなどについて理解をしている。(知識) a:楷書の古典に基づく用筆法や字形を捉えて表現するために必要な技能を身に付けている。(技能) b:楷書の用筆法を意識し、バランスのよい構成を考え、表現を工夫している。 c:楷書作品の表現や鑑賞に主体的に取り組んでいる。	作品	ワークシート 相互批評 作品	ワークシート 作品
2学期	漢字の書・篆刻	行書の古典の鑑賞と臨書 隷書の古典の鑑賞と臨書 篆書の古典の鑑賞と臨書 篆刻の学習 作品制作 相互批評会	a:各書体の美や用筆法、篆刻の種類や刻し方などについて理解している。(知識) a:各書体や篆刻の美しさを表現するための技能を身に付けている。(技能) b:各書体の用筆法や篆刻の刻し方を意識し、バランスのよい構成を考え、表現を工夫している。 c:各書体や篆刻の表現や鑑賞に主体的に取り組んでいる。	作品	ワークシート 相互批評 作品	ワークシート 作品
3学期	仮名・漢字仮名交じりの書	仮名古筆の鑑賞と臨書 漢字仮名交じりの書の学習 作品制作 相互批評会	a:仮名や漢字仮名交じりの書の用筆や構成美などについて理解している。(知識) a:仮名や漢字仮名交じりの書を表現するための技能を身に付けている。(技能) b:仮名や漢字仮名交じりの書の効果的な構成を考え表現を工夫している。 c:仮名や漢字仮名交じりの書の表現や鑑賞に主体的に取り組んでいる。	作品	ワークシート 相互批評 作品	ワークシート 作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度